

## 研究体制

### 岩間賢

本研究代表者  
愛知県立芸術大学准教授  
Satoshi Iwama

#### 「物語性からはじまる色」

中国江南地方から朝鮮半島、日本へ渡り来た「藍の道」を辿り資料収集をおこなう。「礦物顔料と現代重彩」に敦煌莫高窟にて「藍」の使用記述を発見し現地調査を実施。プルシアンブルーが江戸時代に日本に急速に広まった史実を検証する上で、中国少数民族を巡るなどフィールドワークを積み重ねて導き出した研究である。

### 秋本貴透

本研究協力者  
東京藝術大学教授  
Takayuki Akimoto

#### 「官能評価塗布試験と熟覧鑑査」

ホルベイン工業(株)との産学協同研究「油一/YUICHI」の研究開発主任を務めた。本研究では氏が考案した官能評価塗布試験(外観試験・グラデーション試験・描画性能試験・混色性能試験・表現性能試験)をさらに細分化し試験精度を上げ、官能表や総合評価レーダーグラフの作成を担当。

### 岡博美

本研究協力者  
染織家・藍染師  
Hiromi Oka

#### 「有機天然顔料の精製と藍の顔料化」

前研究「有機天然顔料の調査・研究」では研究員として、2014年から茜・黄檗・矢車附子・胡桃・コチニールなどを加熱抽出し水簸による顔料精製実験に従事。本研究では藍の生葉栽培をはじめ、「集積抽出」「沈殿抽出」「過還元再抽出」による藍の顔料化実験を担当。

### 白河宗利

本研究協力者  
愛知県立芸術大学准教授  
Noriyori Shirakawa

#### 「自然科学的手法による分析」

(株)クサカベとの産学協同研究「絵画における新しい下地塗料の研究及び開発から商品化」において多孔質な絵画下地の研究開発を自然科学的手法によって解析した。本研究では、各研究資料の検証および耐光堅牢度試験、破壊・非破壊分析、高精度物質撮影による調査を担当。

### 宮寺雷太

本研究協力者  
版画家  
Raita Miyadera

#### 「有機天然顔料の変遷についての考察」

現在、東京藝術大学ファクトリーラボの講師として紙漉き工房を運営している。本研究では、化学顔料が使用される以前に存在した浮世絵や障壁画の保存修復、被災した文化財の復元技術を飛躍させる理想的な絵具として活用できるか、木版画などの制作によって比較検証を担当。

## 科学研究費助成事業 (17K18463)

## JAPAN BLUE「藍」—有機天然顔料の精製技術に関する研究成果発表展

# はじまりのいろ

2019年4月4日 | 木 | — 11日 | 木 |

## 研究概要

本研究の目的は、1704年にハインリッヒ・ディースバッハがドイツ・ベルリンにて世界最初の人工顔料であるプルシアンブルーを発見したことで途絶えることになった有機天然顔料の精製技術を導き出し、JAPAN BLUE「藍」を顔料化させた絵具をつくることである。

これまでの研究で、茜・黄檗・矢車附子・胡桃・福木・丁子・檳榔樹・コチニールなどの植物を、加熱抽出と水簸によって植物色素の顔料化を可能とした。しかし、この手法では「藍」の顔料化ができなかったため「集積抽出」「過還元再抽出」「沈殿抽出」によって「藍」の色素抽出実験をおこない、極少量ながらも抽出に成功した。

現在、顔料の分散性が高く粒子が微細かつ透明性のある有機天然顔料の精製方法を導き出し、絵具としての実用化に取り組んでいる。

顔料から絵具にするまでの過程を自然科学的調査・官能評価塗布試験・熟覧鑑査をおこない、日本の絵画史における有機天然顔料の変遷を明らかにするものである。

本研究は、産学連携機関としてDIC(株)分析センター、DICグラフィックス(株)において成分分析及び測色による色差の数値化をおこなった。

## 研究報告会

日時：2019年4月11日 | 木 | 14:00—16:00

場所：本学芸術資料館

発表者：秋本貴透、岩間賢、岡博美、白河宗利、宮寺雷太

予約：事前予約不要 (無料)

## 問い合わせ

愛知県立芸術大学 芸術資料館

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114

TEL:0561-76-4698(平日9:00—17:30)

<http://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

